

競技運営に関する注意事項

- 1 監督会議で説明又は決められた事項は、必ずチーム全員に徹底させること。
- 2 ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
- 3 メンバー表は2部作成し、審判員に提出する。提出時期は、9回戦の試合は7回終了時、7回戦の試合は、5回終了時とする。メンバー表交換後、攻守を決定する。
- 4 試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後15分で次の試合を開始する。
- 5 試合予定時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
※ 連絡無しで試合を棄権した場合は、次の大会は参加させないものとする。
(緊急時は、球審の判断)
また第2試合以降のチームは、予定時刻の1時間前までに、集合しておくこと。
- 6 ファールボールは攻撃側で拾い、次打者が球審に渡す。
- 7 ベンチ内での、携帯マイク、携帯電話等の使用を禁止する。メガホンは、ベンチ内1個の使用を認める。
- 8 ベンチに入れる人員は、登録済みのユニホームを着用した監督、選手の20名以内、及び、チーム代表者(責任者)1名、マネージャー1名、スコアラー1名とする。
- 9 守備が終わり、最後のボール保持者は、転がさず必ずマウンドにボールを置いてベンチに戻る。
- 10 マスコットバットを次打者席に持ち込むことは、差し支えないが、プレイの状況に注意し、適切な処理をすること。なお、次打者は、投手が投球姿勢に入ったら、素振りをしてはならない。低い姿勢で待ち、スプレー等は除去すること。
- 11 抗議を有するもの、①監督、主将 ②当該プレイヤー
- 12 グラウンドの整備は、各会場において試合終了の都度、両チームが行う。
チームが発生させたゴミ等は、きれいに清掃する。
また空き缶、ビン等は、必ず持ち帰ること。
- 13 グラウンドのセット(ベースの配置、ライン引き等)作業は、別紙-I 「グラウンドセット作業」に基づき実施する。
- 14 審判の実施は、別紙-II 「審判の実施について」により行うものとする。
- 15 雨天ならびに会場等の問い合わせについては、チームの責任により積極的に行うこと。
 - ① 雨天等決定時刻 当日 午前6時
 - ② 試合実施の可否の確認は、連盟ホームページにより行うものとする。
(2試合目以降は、直接グラウンドにコンタクトすること)
 - ③ 当日中止になった試合及び大会日程の問い合わせは、その週の水曜日以降、連盟ホームページによりチーム等が確認するものとする。
 - ④ その他特別なことは、事務局と連絡をとり、適切な処理を行うこと。

狭山市野球連盟 大会特別規則、申し合わせ事項等

競技上の注意事項、大会特別規則

1 イニング等

- ① リーグ戦 A1リーグの試合は9回戦、その他のリーグ戦は7回戦。
延長戦は行わない。
- ② トーナメント戦は7回戦（大会で特別規則を設けた場合はそれによる）
- ③ トーナメント戦でイニングが完了してタイの場合は、タイブレイク方式を1回行う。
（決勝は除く）
- ④ 上記でなおタイの場合は、トス等で決める。
※ タイブレイク方式
継続打順で、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁の走者とする。
すなわち、無死1・2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- ⑤ リーグ、トーナメント戦とも試合制限時間を設ける。9回戦は2時間、7回戦は1時間45分とする。それを経過した場合は、新しいイニングに入らない。（ただしトーナメント戦の決勝戦を除く）

2 コールドゲーム

- ① 得点差 9回戦の試合：10点差・5回以降、7点差・7回以降
7回戦の試合：15点差・3回以降、7点差・5回以降
- ② 暗黒、降雨その他試合成立については、9回戦の試合は7回終了、7回戦の試合は5回を終了すればゲームは成立する。
- ③ 上記試合の中止等決定については、審判員、控え審判員及び大会本部の協議による。

3 監督、コーチ等が投手のところへ行く回数の制限

1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦（タイブレイク方式も含む）は、2イニングに1回行くことができる。

4 守備側のタイムの回数制限

- ① 捕手または内野手が1試合に投手のもとへ行ける回数は、3回以内とする。なお、延長戦（タイブレイク方式も含む）は、2イニングに1回行くことができる。
- ② 監督またはコーチがプレイヤーとして出場している場合は、投手の所へ行けば野手としての1回と数えるが、協議があまり長引けば監督又はコーチが投手の所へ1回行ったこととして通告する。

5 制限時間のある試合の処置

- ① 先攻チームより得点をリードしている後攻チームが攻撃中に制限時間が来た場合は、その打者が打撃終了後試合中止にする。
- ② 制限時間を経過した時点に行われている回が終了するまで試合は継続する。ただしその回の表終了の時、後攻チームの得点が先攻チームの得点をリードしている場合は、その回の裏は、行わない。またその回の裏の後攻チームが先攻チームを上回る得点をした時は、そこで試合を中止する。

試合中の禁止事項

- 1 選手は、必ずユニホーム、帽子、スパイク（運動靴は不可）を着用する。
- 2 球場での素振り用鉄パイプ及びリングの使用を禁止する。
- 3 投手が手首にリストバンド、サポーターなどを使用することを禁止する。なお負傷で手首に包帯などを巻く必要があるときは、審判員の承認が必要である。
- 4 危険防止のため、足を高く上げてのスライディングを厳禁する。現実これが妨害になったと審判が認めた場合は、守備妨害で走者をアウトにする。
- 5 作為的な空タグは、禁止する。野手が空タグをして走者の進塁を妨害したと審判員が判断した時は、オブストラクションを適用する。
- 6 プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを厳禁する。
- 7 守備側からのタイムで試合が停止された時は、その間投手は、捕手を相手に投球練習をしてはならない。
- 8 捕手は、レガース、プロテクター、捕手用ヘルメットを、打者、次打者及び走者は、必ずヘルメットを着用のこと。（いずれも公認のもの。捕手用マスクは、スロートガード付）
- 9 試合が開始されたら控の選手は、試合に出場する準備（交代選手のキャッチボール）をしている者の他は、ベンチ内にいなければならない。
- 10 次打者は、投手が投球体制に入ったならば、素振りをしてはならない。低い姿勢で待つこと。
- 11 塁上の走者及びベースコーチが、守備側（捕手）のサインを盗み、それを打者に伝達することを禁止する。
- 12 試合中、喫煙、ガム等は、禁止する。
- 13 チャンスや得点をあげた時など、みだりにベンチ内のリーダーが音頭を取って声を揃えて歓声を上げ拍手するようなことは、してはならない。
- 14 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁する。また、スタンドで自チーム側の野次もチームの責任とする。
- 15 揉め事の時審判員や相手側のプレイヤーに手をかけることを厳禁する。

試合のスピードに関する事項

- 1 攻守交替は、駆け足で行うこと。なお、監督等マウンドへの往復は、小走りにスピーディーな行動をとること。
- 2 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。また、捕手から返球を受けた投手は、速やかに投球板を踏んで投球位置につくこと。
- 3 打者は速やかに打者席に入り、バッターボックス内で、ベンチからのサインを見ること。
- 4 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
- 5 内野手の転送球“ボール回し”について、試合中は認めない。